



November 2011
vol.474



練習の成果を発揮した水前寺幼稚園の運動会

C O N T E N T S

- ①・② 熊本YMCAユースリーダーの集い
- ③ YMCAフィランソロピー協会年次総会
熊本一大邱YMCA職員派遣・医師蹴球親善交流
アガベNo.68「北部タイ山岳民族の子どもたちのために」
- ③ event report 水前寺幼稚園運動会/
こどもえいごキャンプ
- ④ Life 第40回 熊本市教育委員会事務局
川上敬士さん・西方浩一さん②
People (地域YMCA情報)
体育英語幼稚園こりす・ラッコ・ペンギンクラス
- 中面 国際協力青少年育成年末募金のお願い

それぞれの活動体験を共有する学びの時 —熊本YMCAユースリーダーの集い—

10月2日(日)、中央YMCAで「熊本YMCAユースリーダーの集い」が開催されました。夏に行われた国際理解プログラムや研修会、また、東日本大震災復興支援活動に携わった学生たちが、活動の内容を報告。それぞれの活動で得た体験や思いなどを語り合い、共有しました。今回はその内容をご紹介します。

参加を通して得られた気づき

—今日は、皆さんが参加したプログラムや研修について話し合い、思いや体験を共有できればと思っています。まず、それぞれの活動の内容を教えてください。



山根彰太 熊本大学YMCA花陵会の山根です。広島YMCA主催の「第33回国際青少年平和セミナー」に参加しました。

私は広島出身で、東日本大震災後、原子力について理解を深めたいと思ったのが参加のきっかけです。セミナーでは、16歳の時に被爆した男性が「原爆投下の責任を追及するのではなく、核兵器を二度と生み出さない意志が大事だ」と語られました。8月6日には、「広島平和記念公園で毎年行われている平和記念式典にも参加。戦争の恐ろしさ、原子力の危険性について学び、平和とは何かについて、改めて考えることができました。」



林田秀平 「第42回全国YMCAリーダー研修会」に参加しました。私はむさしYMCAでキャンプリーダーなどをしています。今回は、キャンプの原体験を目的に、長野県のキャンプ場で、電気や風呂のない2泊3日を過ごしました。「肯定力を鍛えよう」をテーマにした講演では、「教育とはその子が持っている力を引き出すこと。そのためにはほめることが一番だが、しかることも必要」と述べられ、子どもを注意する時に使いがちなネガティブな言葉をポジティブに変換するよいことを学びました。全国から集まったリーダーがそれぞれ活動報告を行う中、子どもとの接し方について共有するなど、貴重な体験となりました。



中村俊史 YMCA学院建築科の中村です。「第15回タイユースワークキャンプ」に参加しました。北部タイ・チェン

ライにあるアカ族の村にホームステイし、集会所の建設を手伝いました。2日間をかけて、集会所の床にコンクリートを流し込む作業です。村の方たちが開いてくれた交流会では、私たちのために民族衣装を着て踊ってくれました。言葉も文化も違う国の人たちと、同じ目標に向かってつながることの素晴らしさ、あたたかさを実感しました。熊本YMCAが支援する「若竹寮」でも、心の交流ができました。タイの子どもたち

わたしと聖句

哀歌3章22〜24節
主の慈しみは決して絶えない。主の憐れみは決して尽きない。それは朝ごとに新たになる。「あなたの真実はそのほど深い。」

沈黙の中にいのちがある
3月までの前任地の北海道の教会では、もうそろそろ夜の長さがピークに達します。だいたい今の時期で日の入りが四時半頃、12月の冬至の頃な

ど、四時にはもう真っ暗です。気温も0度以下が当たり前になり、北海道で生まれ育った人にとっても、この時期は一年の中でいちばん気が滅入ってしまう、耐えることが必要な時期なのだそうです。

しかし、その中だからこそ、受け取ることのできる恵みがあります。草木も虫も、一度すべてが死に絶えて、沈黙の冬が来る。人間も動物も、息を潜める。しかしそこにやがて、クリスマスを待つアドベント(待降節)の明かりが点るのです。暗くて深い闇の中に

点る光、それは本当に暖かく、死の中にあるいのち、この世を暖めるために神さまの光から来られたイエス様、希望の光そのものでした。

寒さが厳しかった次の年ほど、不思議と作物が良く実るのも、不思議でした。すべてが死に絶えてしまったと思われるところで、新しく始まるものがあります。深い闇の中でこそ、神さまの愛はわたしたちを支えてくれているのです。

日本福音ルーテル教会室園教会
西川 晶子



タイ・ユースワークキャンプでは、現地の村の人たちや若竹寮生と共に、集会場建設の作業に汗を流した



早田南美 マレーシアで開かれた「アジア・太平洋YMCA大会ユースアッセンブリー」に参加しました。「壁を乗り越え、変革を人と社会とYMCAに」のテーマのもと、マングローブの植林や地球環境を内容とした分科会に参加しました。また、「壁」を乗り越えるためにYMCAがなすべきことは何かを話し合い、各国の問題を共有しました。アジアの人々が集まり、それぞれの国や活動のことを語り合う姿には胸を打たれました。

が、厳しい社会状況の中でも明るく元気に、まっすぐに生きていく姿を見て、内面的な強さを感じ、感心しました。



前田陽子 YMCA学院老人ケア科に所属しています。東日本大震災復興支援のため、被災地で開かれた夏祭りのサ



藤原賢志郎 同じく、YMCA学院建築科の5名も被災地でボランティア活動を行いました。私たちは、支援活動の拠点となるボランティアセンターを利用される方たちが少しでも快適に過ごせるようにと、木材を組み、畳の敷かれた床の高さを上げるなどの整備を行いました。被災地では見たことのない風景が広がっていて、南三陸町では建物の鉄骨だけがむき出しになっていました。この建物を設計した人たちは、津波による倒壊までは考えてはいなかったでしょう。建築の仕事に就きたいと思っている私たちにとって、被害状況を知ることができたことは貴重な体験です。

自ら体験し、伝えることの重要性
ポートに行きました。亡くなった人を間近に見た子どもたちと接してみても、顔には出さないけれど、震災が心に深い傷を残していると実感しました。被災の様子も視察し、被害の大きさに大変ショックを受けました。熊本に帰って来て、平和な日常生活を送れることに感謝する気持ちが生まれ、被災地を忘れず、この体験を伝え続けなくてはと思っています。



大橋千波 東日本の3つの保育園で、読み聞かせのボランティアを行いました。

現地では、一部しか報道されていない、実際の風景を見てパニックになりました。私が所属するYMCA国際ユースボランティアのメンバーと一緒に制作した手作りの絵本を持って行ったのですが、訪ねるまでは喜んでもらえるのかどうか、とても不安でした。しかし、子どもたちは一生懸命聞いてくれました。子どもたちを笑顔にしたいと思っていましたが、逆にみんなの元気な笑顔をもたらして帰って来ました。今回の活動で、自ら体験することの大切さを学びました。

活動を通して視野が広がる

—皆さんの体験について話を聞きました。もっと聞いてみたいこと、伝えたいことはありますか。

前田 私はYMCA学院の学生になって初めてYMCAがボランティア活動に熱心な組織であることを知りました。YMCAは世界のいるいるな地域にあり、多くの人が様々な活動に取り



国際青少年平和セミナー(広島)

組んでいます。そこには、「人のために何が出来るか」という世界共通の思いがあると、今日の話で分かりました。今ももっといろいろな場所を見たい、もっとYMCAに関わりたいと感じています。

藤原 今回の訪問では、被災者の実際の声を聞く機会があまりなかったのですが、前田さんたちの話を聞くことができてよかったです。現地を見た人たちが、そこで見て、聞いたことを情報交換ができる場所を持つのはいいですね。



沖田知慧 日本に留まらず、世界のボランティアの話を知ることができると、自分の体験以上に、視野が広がったように感じます。

大橋 同じ時期に被災地を訪問した建築科の皆さんの話を聞いて、同じ被災地に行っても、専門分野が違っていると、見方や行動がまったく異なるというのも今回の発見でした。

早田 それぞれは別の活動のようですが、YMCAという一つの機関でこれだけいろいろなことができるのは素晴らしいと思います。アジア大会では、各国から「日本は大丈夫」と心配され、励ましの言葉をもらいました。日本のことを大切に考えてくれていると感じました。

山根 平和セミナーのワークショップでは、災害ボランティアの話も出て、台湾や韓国、アメリカ、カナダなどからの参加者も、災害ボランティアの助けになりたいと言ってくれました。感心すると同時に、自分も海外で起こった災害について、助けになることができないかと考えさせられました。



首藤真理 タイのストリートチルドレンを訪問した時、日本との経済格差を目の当たりにし、ショックでした。民族、言葉は違いますが、人への思いやり、助け合いが大事だと実感しました。



田中佳世 タイからラオスへ渡った際、船乗り場で物乞いをする子どもたちをたくさん目にしました。他国の厳しい状況をj知る機会になりました。



渡邊翔 夏祭りのボランティアの後、南三陸町を視察しました。震災から半年近く経っていたので、ある程度復興が進んでいるとばかり思っていました。しかし、実際は違いました。一方、報道で伝えられる情報はほとんどなくなってきたと思います。東日本の方たちからは「将来に役立ててほしいから、私たちのことを忘れないでください」と言われました。私は、このような場で、自分が体験したことを伝えていくことが使命だと思っています。



会場に掲示された各活動の写真



大橋 現地スタッフからは、炊き出しがあるという案が出ました。仮設住宅に住んでいると、人と関わるのが難しくなると聞きました。地域がバラバラになり、コミュニティができない。だから、引きこもりの方も生まれるようです。YMCAで、みんなが集まることができる場所をつくることできれば、とてもいいと思います。

山根 自らの経験を語り継ぐことは、とても重要だと思います。当時の被爆者の方々が高齢化しています。被爆者の体験を、今後どのように語り継いでいくのか、引き継いでいくのかを考えなくてはなりません。

林田 YMCAに来る子どもたちにもぜひ、実際にボランティアをされた方から直接話してもらいたいですね。

経験をこれからの糧に

—今後どのようにYMCAの活動に関わっていききたいと思えますか。



合志佳菜子 タイにもYMCAがあると知り、もっとボランティア活動に関わっていききたいと思いました。

沖田 野外活動のリーダーから、子どもに寄り添うことが大切だと聞きました。私は水泳のリーダーですが、同じように子どもと接する時には、このことを忘れずにいたいと思います。

藤原 知らなかった世界を知ることができて、誰かの力になれると思うので、積極的にボランティアしたいと思っています。自分を高め、誰かのためになることができるようになります。

大橋 今は、もっと自分に何かできることがあるのではないかと感じています。行くことができる場所には出向いて行って、視野を広めたいですね。

前田 YMCAで人と向き合うことを学びました。人を支える仕事に就くことを目指していますが、壁にぶつかった時には、活動や出会った人のことを思い出し、チャレンジしていききたいと思っています。

—YMCAの将来を支えるユースの若い方に期待します。今日は、ありがとうございました。

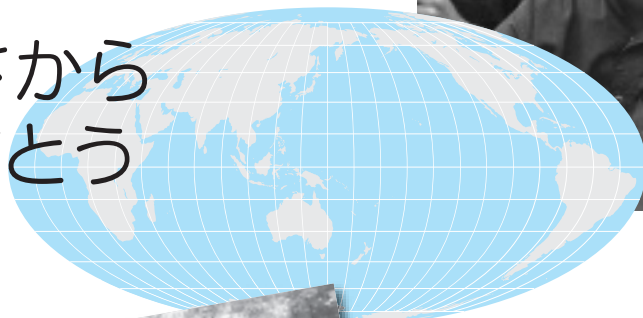


かけがえのない、いのちと平和 国際協力青少年育成 年末募金

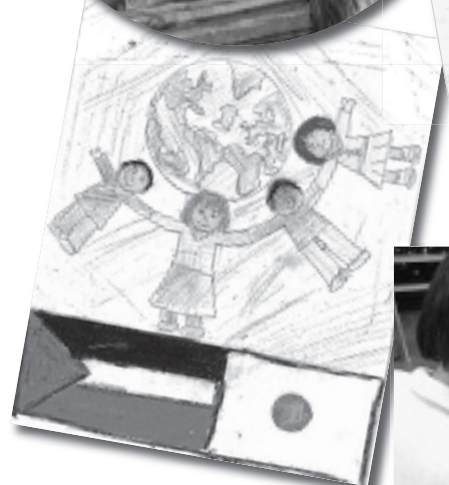
2011.11
2012.1



ひとつのやさしさから
たくさんのありがとう



▲タイ・ユースワークキャンプ
▼アフガニスタン難民の子どもたち
▼昨年の街頭募金の様子



▲自らが日々のいのちの危険にさらされる状況にもかかわらず、東日本大震災に対しパレスチナ・ガザ地区から届けられたイラスト



ご協力をお願い

熊本YMCAでは、毎年、年末から翌年1月にかけて標記の募金活動を行っております。昨年度も皆様から尊いご協力をいただき、目標を上回ることができました。心より感謝申し上げます。

皆様からお寄せいただきました募金は、世界中に広がるYMCAネットワークにより国際協力活動やこの活動を支える青少年の育成に用いられる他、経済的援助を必要とする子どもたちへの支援(BAPY基金)、草の根活動を行っているNGO支援などに用いられます。

私たちは平和の祈りを行うだけでなく、世界の平和への関心をさらに深め、私たちにできる平和につながる様々な活動を行っていきたくと考えています。紛争や貧困、また自然災害などによって世界中の多くの仲間が苦しんでいます。現地での直接的な支援活動や被災した子どもたちの心のケアを継続して実施する必要があります。加えて、東日本大震災復興のため、被災者への支援を継続して行って参ります。

皆様にはこのような募金の主旨をご理解いただき、本年度もご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2011年11月 理事長 吉本 貞一郎
総主事 堤 弘 雄

国際協力青少年育成 年末募金ってなに？

地球上すべての人々が、国や民族、宗教の違いを認め合い、平和にいきいきと暮らすことができる社会をつくるための募金です。



どうして募金が必要なの？

困ったり、悩んでいる人がいたらどうしますか。そんな相手のことを、“自分のこと”として考えてみませんか。世界や地球の一人として、考え、行動すること、そして、みんなのいのちを大切にすること、募金はその気持ちを伝える一つの方法です。世界中に思いやりのこころをわけてあげてください。

熊本YMCA 2011年度 国際協力青少年育成 年末募金

募金目標

720万円

拠出予定

- ◎日本YMCA同盟東日本大震災救援・復興募金 70万円
- ◎国際協力活動のため
 - 日本YMCA同盟国際協力募金..... 50万円
 - 青少年国際交流プログラム支援..... 60万円
 - 北部タイ山岳少数民族の子どもたちの支援 60万円
 - AFF基金(紛争や貧困、災害で苦しんでいるアジアの子どもたちのための基金)..... 30万円
- ◎青少年育成基金
 - ボランティアリーダー育成及び派遣..... 80万円
- ◎福祉キャンプの支援
 - ポニーキャンプなどの福祉キャンプ..... 30万円
- ◎社会福祉法人「熊本YMCA福祉会」の支援 40万円
- ◎BAPY基金(経済的困難のためにYMCAのプログラムに参加できない子どもたちのための基金)..... 220万円
- ◎諸団体支援
 - 地域のNPO・NGOの支援..... 20万円
 - 自立の店「ひまわり」..... 30万円
 - 熊本いのちの電話..... 10万円
- ◎事務費..... 20万円

平和を想うひとつひとつの心がつながって大きなチカラに！

YMCAへ募金をお持ちください

直接お近くのYMCAへお持ちください。銀行振込や郵便振替・書留でも受け付けています。

郵便口座 01950-9-45588
加入者名 熊本YMCA本部事務局

銀行口座 肥後銀行新町支店(普)0310914
熊本YMCA賛助募金 理事長 吉本貞一郎

街頭募金活動にご参加ください

街頭募金の呼びかけにご協力いただけるボランティアを募集します。

日程: 12月4日(日)
場所: 上通、鶴屋前、新市街、健軍商店街、サンロードシティ熊本、ゆめタウンはません・サンピアン・光の森、阿蘇周辺(予定)

※YMCA窓口または振込で募金いただいた方のお名前はYMCA館内に掲示とYMCA NEWS 3月号に掲載させていただきます。

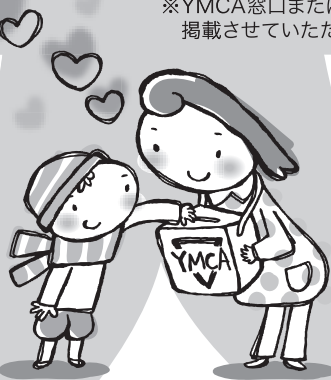
チャリティ特別プログラムにご参加ください

各YMCAで行われるプログラムに参加すると、参加費がチャリティになります。

日程
ながみねファミリーYMCA: 1月15日(日)
中央・みなみ・むさしYMCA: 1月22日(日)
※日程は変更になる場合があります。

125の国と地域に広がるYMCAのネットワーク。今日も世界中で、日本各地で、YMCAは活動しています。

今も、あなたの助けを必要としている人たちがいます。



国際協力青少年育成年末募金は世界や地域のために使われます。

●東日本大震災復興支援

2011年3月11日に発生した東日本大震災で被災された方々を全国のYMCAが協働し、継続的に支援していきます。また、地域復興の担い手となるリーダーを育成し、「人といのちを育む」活動を展開します。



海外のYMCAから寄せられたメッセージ▶



世界のYMCAの取り組み

■アフガニスタン難民支援 (パキスタン・ラホール)

地元ラホールYMCAが日本のYMCAの協力のもと、アフガニスタン難民の子どもたちのための学校を運営し、読み書きなどの学習の他に、給食の提供と健康チェックなどを行っています。



ゴミの山で換金できるものを探す子ども

■パレスチナYMCAの支援

パレスチナのYMCAが、長引く紛争と占領により心身に傷を負った人々のためのリハビリテーション、職業訓練、女性の自立支援などを行っています。日本のYMCAは、オリーブの苗木を平和への道しるべ、希望として植樹する「オリーブの木キャンペーン」にも協力しています。



オリーブの収穫作業を描いたイラスト

■東ティモールYMCAの支援

東ティモールは2002年に独立。長い独立抗争による農地荒廃による失業や貧困など多くの問題を抱えています。そのような中、東ティモールのYMCAは未来に向けた人材育成のため、コーヒー生産支援、サッカー教室やパソコン教室などを行っています。



■災害被災地の支援

世界で相次ぐ地震や津波などの自然災害により困難な生活を強いられている被災地への支援を、現地のYMCAや関係団体等と共に中長期的に行っています。

■ハイチは今…

約23万人が犠牲になったハイチ大地震から1年後の2011年1月12日、首都ポルトープランスの大聖堂で犠牲者を悼む追悼式典が行われました。ハイチ政府によると、約81万人が今もテント生活を送り、コレラの流行など依然として大きな困難に直面しています。



ハイチYMCAは世界中のYMCAから希望の絆と支援を与えられ、家族、青年たち、子どもたちのための活動を続けています。

8月、新会館のオープニングセレモニー。ここを拠点に被災地復興支援・青少年活動が行われている。



熊本YMCAの取り組み

●国際協力活動のため

北部タイ山岳少数民族の子どもたちの支援

タイのYMCAと協力し、北部タイ山岳少数民族の子どもたちを支援する里親運動を続けています。55名の子どもたちが「若竹寮」で共同生活をしながら、街の学校に通っています。



若竹寮の子どもたち

青少年国際交流プログラム

青少年が豊かな出会いを経験し、平和な世界をつくり出すことを願って、他国の青少年との交流を通して相互理解を深める国際交流プログラムを実施しています。



日韓視覚障がい青少年交流

●青少年育成のため

ボランティアリーダー育成・派遣

将来リーダーシップを発揮し社会に貢献できるような青少年を育成するため、国際理解プログラムやリーダー研修など積極的に青少年を派遣しています。



全国リーダー研修会

障がい児キャンプ

視覚に障がいのある子どもたちのキャンプを実施し、学校や家庭では体験できない野外活動の機会を提供しています。



ポニーキャンプ

●NGO・NPOの支援などのため

草の根の活動を支援します。

アガペ No.68

総主事
堤 弘雄

北部タイ山岳民族の子どもたちのために

熊本YMCAは17年前からタイのチェンライYMCAの協力のもと、55名の山岳民族の子どもたちのために「若竹寮」の運営と学費の支援を行っています。

山岳民族の多くは、山奥の小さな集落で高床式の藁葺きの住居に住んでいます。当時、電気やガスや水道はありませんでした。ほとんどが経済的に貧しい農家です。そこで生まれた子どもたちは学校教育を受けることができません。また、戸籍を持たないまま成長します。娘たちは年頃になると、育った村を離れて町に働きに出ます。そして彼女たちはお金を得るために売春を行い、やがてエイズの病に犯されていきます。エイズの感染は町中に拡大して多くの家庭を崩壊させて、新たな孤児を生み出していくのです。

私たちは、このような貧困と教育の問題に何とか歯止めをかけるために若竹寮を運営して、子どもたちをその寮から学校に通わせることにしました。若竹寮の子どもたちは小学校から大学生まで55名です。教育を受けることができます。高校を卒業した子どもたちの多くは就職しますが、中には大学や専門学校に進学する者もいます。

子どもたちが寮で食事をする時は、毎食、自分を養育してくれている日本の里親に感謝をしていただきます。また、ご飯を一粒も残さず食べます。子どもたちの寮での生活費や学費の援助は熊本県内外の里親の方々の寄付によってなされています。年間5万6千円で一人の子どもが1年間生活し、教育を受けることができます。中には教会や学校など1つの団体で1人の子どもを支えているケースもあります。熊本YMCAは里親を求めています。子どもたちのために皆様のご協力をお願いいたします。



**YMCAファイランソロピー協会年次総会
被災地で感じた、人のつながりの大切さ**

10月21日(金)に開催されたYMC Aファイランソロピー協会の年次総会。初めに、事務局長の堤弘雄さんが「今後、一人ひとりの命を大切にすることを意識を持って活動する存在でありたい」と挨拶。続いて、事業報告、決算報告、会計監査報告など各議案について協議。新年度の事業方針計画案では、会員企業の増加に向けた働きかけや東日本大震災の復興支援策の検討などが提案されました。議案はすべて満場一致で承認され、新しいスタートを切りました。

その後、熊本日日新聞社編集局文化生活部の小多崇さんが、「被災地で見た現代社会のひずみ」をテーマに講演。小多さんは、「人と人とのつながりの大切さ、災害時の活動をどう想定すべきかを考えさせられました」と、現地取材を通じた体験を紹介。また、「弱者が最優先で救われず、弱者のまま取り残されていた現実がありました。私たちは、日常生活の中で少しずつ人と人との絡み合いを太くし、いざという時に対応できるようにしなければ。地域の一員として、もっと深く地域と関わりを持ちたい」と話し、出席者は、真剣な表情で聞き入っていました。



熊本ー韓国大邱の職員・医師交流

1969年以降、熊本YMCAと韓国大邱(テグ)YMCAの間で多様な交流が展開されてきました。10月に実施された職員派遣と医師蹴球親善交流のご報告です。

10月4日(火)～8日(土)、大邱YMCAでの研修に3名が参加しました。世界陸上大会が行われ、大変な盛り上がりを見せた大邱ですが、東日本大震災での大きな被害だけでなく、さらに台風被害が重なったことについて痛みを覚え、平安を願っていると丁寧に語られました。地域に溶け込む再生自転車事業や環境保護事業、学童保育や家出少年保護施設など、国の違いはあっても使命実現を目指すYMCAがそこにはありました。

職員 吉田美華



交流32年、第23回日韓YMCA医師蹴球親善交流が、韓国側のホストにより釜山で開催されました。熊本チーム対大邱チームの対戦は1-0の結果で熊本チームが勝利を収めました。さらに、熊本・大邱混成チーム対釜山医師チームとの対戦もあり、サッカーを通じて国を超えた交流が深められました。

職員 因幡亮治



えいごアースキャン

開催期間/2011年9月24日(土)～25日(日)
開催場所/阿蘇YMCA

子どもえいごスクールの「アースキャン」が行われ、年長から小学6年生まで65名の子どもたちが参加しました。熊本YMCAのキャラクターの一つであるケアコッコと一緒に地球を守るのテーマのもと、英語を使いながら、キャラクターディベロップメント(人格向上)を実践することが特徴のキャンです。楽しいアクティビティや人形劇を通し、地球環境について学び、日頃できるエコ活動について考えました。2日目の活動のまとめでは、一回り成長し、積極的に発表する子どもたちの姿が印象的でした。

むさしYMCA 相馬美幸

event REPORT

元気と笑顔あふれる運動会

開催日時/2011年9月24日(土)9時～14時半
開催場所/出水南小学校グラウンド

青空の下開催された水前寺幼稚園の運動会。一生懸命にゴールを目指す子どもたちの姿、転んでもあきらめずに最後まで走り抜いた子どもたちの姿にたくましさを感じられました。また、綱引きや玉入れでは、クラスのみんなと力を合わせて楽しむ様子に、大きな拍手が沸き起こりました。

Life

第40回

“いのち”“生活”
“いきがい”をテーマに
したメッセージ。



熊本市教育委員会事務局
教職員課学校サポート係
係長

川上敬士さん(右)
指導主事
西方浩一さん(左) ②

大人が発見しにくい新しいいじめ インターネット・携帯電話の利用に注意を

いじめの内容としては「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、いやなことを言われる」の割合が最も高く、これは熊本市においても、全国的にも同様です。次いで「仲間はずれ、集団により無視をされる」「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする」が続きます。

注目したいのは、インターネットや携帯電話の利用が急速に普及する中、社会的な問題になっている「ネット上のいじめ」です。現在は、全国で3.9%、熊本市で2.1%と割合としてはわずかですが、インターネットによるいじめは書き込まれた本人もそれを知らないことが多く、表面化していないものが多いと推測されます。いじめが起こりやすいのは、大人である教師の目が届かなくなりがちな休み時間や放課後などです。パソコンや携帯電話を使った悪口や誹謗中傷等は、さらに大人が発見しにくいために問題視されています。大人の目に触れないところで誹謗中傷する陰湿ないじめが、今後増加していくのではないかと危惧しています。子ども・保護者・学校関係者が正しい知識を持つとともに、その危険性について十分理解し、ルールやマナーをきちんと守るようにすることが大切です。(つづく)

災害時等における“こころのケア”ボランティア講座

災害や事故が発生した場合に関係者の心に寄り添うことができる人材を養成する、3回シリーズのボランティア講座を開催します。

①11月6日(日)15:00~17:00 会場/中央YMCA(定員70名)

「災害時のボランティアリーダーシップ」

②11月13日(日)13:30~15:30 会場/中央YMCA(定員70名)

「被災者支援ネットワークについて」

③11月27日(日)14:00~16:00

会場/熊本市総合体育館青年会館ホール(定員400名)

「心的外傷後ストレス障害(PTSDの症状と対応)」

参加費:無料(事前予約が必要です。定員になり次第締め切り)

ホームページ <http://www.kumamoto-ymca.or.jp/international/1712.html>

市民クリスマス2011 森祐理チャリティコンサート

クリスチャンシンガーで童謡歌手の森祐理さんをお招きしてチャリティコンサートを開催します。美しい歌声に乗せたメッセージが心に響きます。益金は東日本大震災復興支援のために役立てられます。

日時:2011年12月7日(水)18:00開場 18:30開演

会場:熊本県立劇場演劇ホール

入場料:家族(4名)4000円 ペア2500円 一般1500円 学生1000円

チケット取扱:YMCA各施設、熊日プレイガイド、交通センタープレイガイド、大谷楽器

ホームページ<http://www.kumamoto-ymca.or.jp/international/1738.html>

お問合せ/熊本YMCA TEL 096-353-6397 FAX 096-324-7877

PEOPLE 熊本YMCAに関わる人たちを順番にご紹介します。

体育英語幼児園こりすクラス



10月16日(日)、27回目の運動会が行われました。かけっこ・親子三代リレー・応援発表・親子リズム体操・玉入れと全プログラムの主役となった子どもたち。玉入れでは、ウルトラマンソフィと初共演! みんな大喜びで楽しい時間を過ごしました。入園から早くも半年が経過しました。半年間の成長の発表の場となった運動会。心も身体もたくましくなり、“おにいちゃん”、“おねえちゃん”になったなあと感じました。今後も、芋ほり、スケートと行事が続きます。みんなでいろいろなことにチャレンジしていきます。 中央YMCA 平本沙音娘

体育英語幼児園ラッコクラス



運動会では“がんばろう日本YMCAから元気を”をテーマにラッコクラスでは『You can do it』の曲に合わせてかわいいダンスを披露しました。お友だちやリーダーが着ている衣装や旗は、すべてお母さんたちの手作りです。

保護者の方のチームワークもばっちり、綱引きでは見事優勝! 3月の卒園まで芋ほり遠足やスケートなどどんどん新しいことにチャレンジしていきます。これからも子どもたちの成長を温かく見守っていききたいと思います。

ながみねファミリー YMCA 下田奈央子

体育英語幼児園ペンギンクラス



運動会の応援発表では、“くまモン”に変身したみんなが、平均台や、はしご登り、跳び箱8段からのジャンプやマット運動にチャレンジしました。おうちの人からのたくさんの協力と心温まる応援のお陰で、最初から最後までみんなで力を合わせて発表することができました。

いよいよ1年間の振り返り地点。これから楽しく身体を動かして、さらに心も身体もたくましくなり、3月の卒園の日を迎えたいと思います。みんなでまた力を合わせてがんばっていきましょうね!

むさしYMCA 丸内陽子

YMCA NETWORK

熊本中央YMCA	☎096-353-6391	ながみねファミリーYMCA	☎096-385-0676
YMCA学院	☎096-353-6393	熊本むさしYMCA	☎096-248-6334
YMCA学院高等学校	☎096-353-6391	阿蘇YMCA	☎0967-35-0124
本部事務局・ICR	☎096-353-6397	赤水保育園	☎0967-35-0024
熊本みなみYMCA	☎096-378-9370	尾ヶ石保育園	☎0967-32-0213
上通YMCA	☎096-352-2344	永草保育園	☎0967-32-0810
熊本東部YMCA	☎096-382-6661	リフレスおおむた	☎0944-58-7777
水前寺幼稚園	☎096-362-4141		



キャラクター・ディベロップメント推進中

むさしYMCAチャリティーバザーには、毎年多くのリーダーたちがボランティアで参加してくれています。今年にはわなげやサイコロ、ボウリングなどのゲームコーナーに取り組みました。どうやら子どもたちに楽しんでもらえるだろうかと試行錯誤を重ね、毎晩遅くまで責任感を持って作り上げていました。いよいよ迎えた10月23日(日)のバザー当日。3つのゲームコーナーは大盛況で、バザーに来てくれた子どもたちの笑顔を見て、リーダーたちも達成感のあふれるいい表情になっていました。(野鳥)



【基本聖句】喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい(ローマの信徒への手紙12章15節)

熊本YMCAの使命

共に生きる社会
ウェルネス活動

地球環境の保全
ボランティア活動

生涯学習の推進
平和な世界

■ホームページ www.kumamoto-ymca.or.jp

■メールマガジン登録
www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi

